

♪平成25年5月～7月のできごと



スオスダイ！ ニャムバイハウイルーナウ？（こんにちは！もうご飯食べた？それともまだ？）カンボジアには食事を大切にする文化があり、「こんにちは」の後に、ご飯のことを聞いてくれることがよくあります。もう食べた？まだなの？今日は何食べるの？うちで食べていく？…なんて、日本で突然聞かれたらぎょっとしてしまいますが、ここでは当たり前、もはや挨拶がわりです。

このような日本とは異なる文化をもつカンボジアという国に住んで1年が経ちました。みなさんのおかげで元気に1年を過ごすことができました。残りの任期もムオイムオイで頑張ります！今回はカンボジアの季節のことと、6月に開催した体育研修会のことをお伝えします。

☁️ カンボジアの季節 ☀️

春夏秋冬、日本には4つの季節がありますが、カンボジアには季節が2つしかありません。

雨季

雨がよく降る季節。蒸し暑いですが、雨が降ると少し涼しくもなる。6月～11月ごろ。

☆雨が一番よく降るのは7月～9月ごろ。

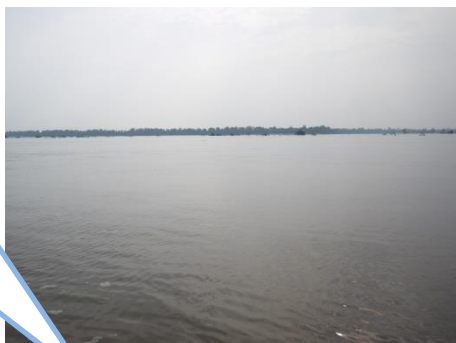
乾季

雨がほとんど降らない季節。カラッと乾いた暑さが続く。12月～5月ごろ。

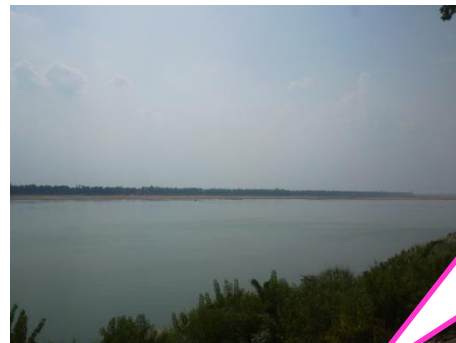
☆12月～1月は涼しく、3月～5月は暑さのピーク。

季節があるとはいえ、年中暑いカンボジアでは、あまり季節の違いはないような気がしていました。でも、1年通してカンボジアで過ごしてみると、いくら暑くても暑さの種類が違うことが分かります。そして、カンボジアの人は、気温や湿度、天気の様子、市場に並ぶ野菜や果物など、身の回りのいろいろなものの微妙な変化から季節を感じとって生活しています。今年も雨季がやってきました。毎日のように降る雨の量はとても多く、川の水位や湖の大きさまで変わってしまいます！

川は茶色っぽく濁った感じ。水位が上がると、中洲の島の岸が水でいっぱいになります。



雨季のメコン川



川は青色っぽく割ときれい。中洲の島の岸が干上がり、土の部分がわかるのがわかりますか？

乾季のメコン川



体育研修会



2月3月、2年生の教育実習を観察する中で、新たな課題に直面しました。それは、「一般の小学校で体育の授業があまり行われていない」ということです。これでは、養成校で体育を学んだ学生たちも、学んだことを存分に発揮することができません。何とかしなければ！

3つの実習校へ出向き聞き取り調査を重ね、分かったことは、先生方も体育を教えてみたい気持ちはあるものの、「教え方がよくわからない」「道具や場所が不足している」ということでした。この課題を解決すべく、私はカウンターパートのソパーサとともに、3つの実習校の先生たちを招いて体育研修会を開催することに決めました。クメール語での資料作成や、研修内容の構成、会場の準備、経費の問題、日程の確認…度重なる問題に悪戦苦闘しましたが、ソパーサをはじめとする職場のみんなの協力で、6月3日～5日の3日間で、無事開催することができました。



参加校の先生による研究授業、ソパーサによる講座や実技研修。それから、3つの参加校の先生方混合のグループで活動してもらった指導案作成や模擬授業。私は、研修会のテーマを「現地の先生同士が学びあう輪をつくること」と決めて計画しました。外国人の私が一方的に教えるよりも、先生同士が意見を交流させ、ともに活動する中で学びあう方が充実した研修になるはずだと思っていたからです。そのためには、先生方の主体性や意欲をどこまで引き出せるか…それが問題でした。でも、私の心配をよそに、47人の先生方は、全員が3日間休まず研修に参加！先生同士が、話し合っ

て授業を考え、声をかけ合っ

て運動を楽しむ姿は、とても頼もしかったです。

運動の面白さをどう感じるのか？体育の授業に何を求めるのか？文化や歴史の違う日本とカンボジアでは、そこも少し違っているような気がします。でも、「帰ったら子どもたちに教えた」「子どもたちの喜ぶ顔が楽しみ」と笑顔で語る先生方を見ていたら、子どもたちを思う教師の気持ちに違いはないと感じました。当日までの苦労を一瞬で忘れさせてくれる一言でした。

今後は養成校での授業はもちろん、空き時間を利用して、3つの小学校のフォローアップも行っていく予定です。まだまだ小さいけれど、先生たちの学びあう輪や情操教育が、クラチェの中に、カンボジアの中に、大きく広がっていく事を願って、私にできることを続けていきたいです。